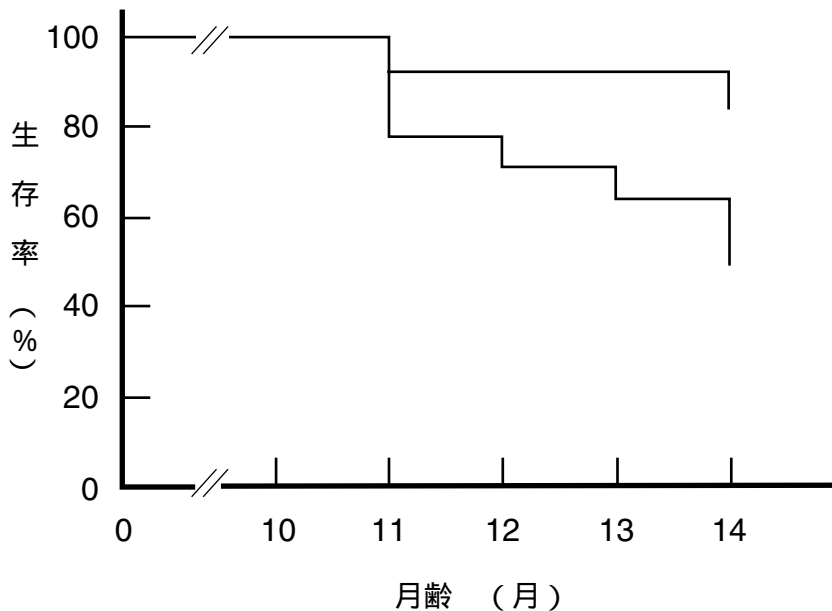


高い生存率

自己免疫疾患に紅斑性狼瘡（lupus erythematoses）という女性に多くみられる膠原病があります。この疾患モデルである自己免疫疾患傾向のある（NZB×NZW）F1（B/W）雌マウス用い，このマウスの8週齢から免疫ミルクを飼料に混ぜて与え，対照群は市販のスキムミルクを与えました。結果は免疫ミルクを与えた群の方が4ヶ月齢および6ヶ月齢における抗一本鎖DNA抗体（抗核抗体のひとつ）の力価が有意に低いことがわかりました。

また、免疫ミルクを与えたマウスでは蛋白尿の開始が遅れ，寿命が有意に伸びたことがわかりました。この実験結果は「免疫ミルク」は自己免疫疾患に対して予防効果があるかもしれないということを示唆しています（J.Nutr.121:1860-1868）。



グラフ説明文：

このグラフは自己免疫疾患傾向のあるマウスに「免疫ミルク」を投与したグループ（ ）と「市販のスキムミルク」を投与するグループ（ ）とに分け生存率を調べたものです。「免疫ミルク」グループの方が「市販スキムミルク」グループに比べ生存率が高いことがわかります。

：統計学的に有意差があるということを示しています。